

教育実習の 3 週間は、長いようで短く一瞬にして過ぎ去っていった。終えてみてまず思ったことは「後一週間だけでもいいからやりたい」ということだった。そう思えるほど授業、生徒とのコミュニケーション、先生方や他の実習生との関係は私の心に深く残っている。最後のホームルームに行きたくなかった。行ってしまうと全てが終ってしまうからだ。そのため、ホームルーム前の授業が終る 20 分ほど前からそわそわし始めて、落ち着かなくなった。しかし、その時は来て教室へ行くと生徒は温かく迎え入れてくれて、そこからはぼんやりとしてあまり記憶にない。私のモットーは「好かれようとするな、好きになれ」である。私自身が生徒に愛を持っているから生徒にどう思われても構わない、そういった考えであるが、これは達成できたのではないかと思う。愛を持っていてからこそ全てにおいて本気で取り組み、「生徒のために」と思い続けることができた。そのようにして「全力」でいたからこそ、自分の能力不足に腹が立ったし、生徒の反応がない時などには、悩み苦しんだ。指導教官からは「説明が単調になっている」とご指導を受け、何とか改善しようとしたが、うまくいったかどうかは定かではない。しかし、悔しい思いを多く経験したからこそ授業中の生徒の「あ〜」や「へえ〜」という声を聞いた時が本当に嬉しかった。授業の構成を考える時も、生徒が興味を持てるように常にエピソードや関連した雑学などを必死に探すことがなぜか非常に楽しかった。また指導教官から「よく教材研究ができています」とお褒めの言葉をいただいて、本当に良かった。しかし反省会でも言われたことだが、教育実習生だからこそ教材研究に時間をかけられたが、教員になってからだと、他の業務にもおわれ、教材研究をすることも大変になってくると思う。

教育実習で学んだことは、普段の生徒とのコミュニケーションで生徒との関係をより強めていくことが、授業の質を向上させていくということだ。ホームルーム担当でやる授業は、会話なども交えて、授業中に質問が出てくることもあった。各クラスの特徴にもよるが、あまり行き慣れていないクラスではどこか堅苦しい雰囲気になっていた。発問を考え答える時にも、様々な答えが見られ答えやすい雰囲気になっていたように感じる。私はホームルームとそうじの時間、総合的な学習の時間しか生徒とコミュニケーションをとる時間がなかったが、そのなかでも何とかできる限り関係を深くすることができたと思う。

この教育実習の 3 週間は楽しい日々であったが大変な日々でもあった。教えること、伝えることの難しさを実感したし、自分の能力の無さも分かった。しかし、実習を終えてより一層教員になりたいと思うようになったし、最高の経験になった。これからも努力して、次は実習生を指導できるようになりたい。